

## シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(1)職務の理解			
指導目標	① 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅に おけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	3	3	0	< 講義 > ・介護保険サービス（居宅、施設） ・介護保険外サービス < 演習 > グループディスカッションにて、介護に抱くイメージ、介護保険ではどのようなサービスが提供されているか話し合いを行う。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	< 講義 > ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の 流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の 社会 資源との連携 < 演習 > グループディスカッションにて、介護職の仕事内容や働く現場のイメージについて話し合い、講義にて具体的なサービス提供現場の理解を深める。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」
------------	------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添 2 - 2)

令和 5 年 4 月 1 9 日現在

## シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	① 介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ② 虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3	1	2	< 講義 > < 通信課題 > (1) 人権と尊厳の保持 (2) ICF (3) QOL (4) ノーマライゼーション (5) 虐待防止・身体拘束禁止 (6) 個人の権利を守る制度の概要 < 演習 > 具体的な事例をもとに、どのような行為が虐待にあたるのかをグループで話し合い、虐待の定義の認識と尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション等への理解を深める。
② 自立に向けた介護	4	1	3	< 講義 > < 通信課題 > (1) 自立支援 (2) 介護予防 < 演習 > 具体的な事例をもとに、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違

				い、自立 という概念に対する気づきを促し、理解を深める。
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	< 講義 > ・人権について ・人権への取組み ・身近な人権のこと
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」
------------	------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添 2 - 2)

令和 5年 4月 19日現在

## シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
指導目標	① 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスク とその対応策のうち重要なものを理解している。 ② 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	1	0.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 介護環境の特徴の理解 (2) 介護の専門性 (3) 介護に関する職種 < 演習 > 介護の目指す基本的なものは何かをグループ内で話し合い、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について理解を深め

				る。
②介護職の職業倫理	1.5	1	0.5	< 講義 > < 通信課題 > ・職業倫理
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	0.5	1	< 講義 > < 通信課題 > (1) 介護における安全の確保 (2) 事故予防、安全対策 (3) 感染対策 < 演習 > 現場で起こり得る事故について、グループ内で話し合い、事故予防、安全対策等の大切さとその対策について学ぶ。
④ 介護職の安全	1.5	0.5	1	< 講義 > < 通信課題 > 介護職の心身の健康管理 ・介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ストレスマネジメント ・腰痛の予防に関する知識 ・手洗い・うがいの励行 ・手洗いの基本 ・感染症対策
(合計時間数)	6	3	3	
使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」			

(別添 2 - 2)

令和 5年 4月19日現在

## シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	① 介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	4	0.5	3.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 (2) 仕組みの基礎的理解 (3) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 < 演習 > ケアマネジメントのサービスの種類と内容についてグループで話し合い、理解を深める。
② 医療との連携とリハビリテーション	2	0.5	1.5	< 講義 > < 通信課題 > ・医行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーションの理念 < 演習 > 医行為の考え方についてグループで話し合い、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて理解を深める。
③ 障がい者総合支援制度およびその他の制度	3	0.5	2.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 障がい者福祉制度の理念 (2) 障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 (3) 個人の権利を守る制度の概要
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」
------------	------------------------------

(別添 2 - 2)

# シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① 高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識すること。 ② 初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護における コミュニケーション	3	1.5	1.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 (4) 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 < 演習 > 利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由についてグループで話し合い、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。
② 介護におけるチームの コミュニケーション	3	1.5	1.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 記録における情報の共有化 (2) 報告 (3) コミュニケーションを促す環境 < 演習 > 講義内容をもとにグループディスカッションを行い、チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」
------------	------------------------------

## シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(6)老化の理解			
指導目標	① 高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明。 ② 介護において、生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うこととからだの変化と日常	3	1.5	1.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 < 演習 > 加齢・高齢化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神 面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴についてグループ内で話し合い、理解を深める。
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」
------------	------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添 2 - 2)

令和 5年 4月19日現在

## シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(7)認知症の理解			
指導目標	① 認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ② 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1.5	1	0.5	< 講義 > < 通信課題 > 認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点 (できることに着目する)
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1	0.5	< 講義 > < 通信課題 > 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理
③ 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	2	0.5	1.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 (2) 認知症の利用者への対応 < 演習 > 講義をもとに認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について、グループディスカッションを行い、理解を深める。



④ 家族への支援	1	0.5	0.5	< 講義 > < 通信課題 > ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア）
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」
------------	------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添2-2)

令和 5年4月19日現在

## シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(8)障がいの理解			
指導目標	① 介護における、障がいの概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ② 高齢者の介護との違いを念頭におき、それぞれの障がいの特性と介護上の留意点に対する理解を促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 障がいの概念とICF (2) 障がい者福祉の基本理念

② 障がいの医学的側面生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5	< 講義 > < 通信課題 > (1) 身体障がい (2) 知的障がい (3) 精神障がい (高次脳機能障がい・発達障がいを含む) (4) その他の心理の機能障がい < 演習 > 講義を通してグループディスカッションを行い、障がいの概念と I C F、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護に おける基本的な考え方について理解を深める。
③ 家族の心理、かかわりあい支援の理解	1	0.5	0.5	< 講義 > < 通信課題 > 家族への支援
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」
------------	------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添 2 - 2)

令和 5 年 4 月 1 9 日現在

## シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<p>① 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>② 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	3	2.5	0.5	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）</li> <li>・法的根拠に基づく介護</li> </ul>
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	2.5	0.5	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と記憶の基礎知識</li> <li>・感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい</li> <li>・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因</li> <li>・こころの持ち方が 行動に与える影響</li> <li>・からだの状態がこころに与える影響</li> </ul> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>講義を通してグループディスカッションを行い、理解を深める。</p>
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	3	1	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</li> <li>・骨・関節・筋に関する基礎 知識、ボディメカニクスの活用</li> <li>・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識</li> <li>・自律神経と内部器官に関する基礎知識</li> <li>・こころとからだを一体的に捉える</li> <li>・利用者の様子の普段との違いに気づく視点</li> </ul>
④ 生活と家事	2	1.5	0.5	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援</p>
⑤ 快適な居住環境設備と介護	2.5	2	0.5	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p>
⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	6.5	1	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>整容に関する基礎知識、整容の支援技術</p> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>講義を通して、身体状況に合わせた衣服の選択、着脱等について、実践的に理解を深める。</p>
⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	6.5	1	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用 方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻がいないこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留</p>

				<p>意点と支援</p> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>福祉用具を用いて、移動介助について実践的に学ぶ。</p>
⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	6.5	1	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>福祉用具を用いて、食事介助について実践的に学ぶ。</p>
⑨ 入浴に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	6.5	1	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>福祉用具を用いて、入浴介助について実践的に学ぶ。</p>
⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	6.5	1	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>福祉用具を用いて、排泄介助について実践的に学ぶ。</p>
⑪ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5.5	4	1.5	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>福祉用具を用いて、理解を深める。</p>
⑫ 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	3	2.5	0.5	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>福祉用具を用いて、理解を深める。</p>
⑬ 介護過程の基礎的理解	7.5	6.5	1	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>・介護過程の目的・意義・展開</p> <p>・介護過程とチームアプローチ</p> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>講義と事例をもとにグループディスカッションを行い、理解を深める。</p>
⑭ 総合生活支援技術演習	7	6	1	<p>&lt; 講義 &gt; &lt; 通信課題 &gt;</p> <p>生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>&lt; 演習 &gt;</p> <p>事例をもとにグループワークを行い、理解を深める。</p>
	75	63	12	

使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」 ベッド、シーツ、車椅子
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添 2 - 2)

令和 5年 4月 19日現在

## シラバス

指定番号 279

商号又は名称：株式会社 HISWAY

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	① 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う。 ② 就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
1 振り返り	2	2	0	< 講義 > ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） < 演習 > 講義をもとにグループディスカッションを行う。
2 就業への備えと研修修了後における事例	2	2	0	< 講義 > ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例（Off-JT, OJT）を紹介

(合計時間数)	4	4	0	
---------	---	---	---	--

使用する機器・備品等	株式会社 QOL サービス「介護職員初任者研修テキスト」
------------	------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。